



あそびのちから

～子どもたちの復興をささえるもの～



2016年

6月14日(火)

14:30～16:00 ※13:30開場

会場

ユニセフハウス

港区高輪4-6-12

品川駅徒歩7分

あそびのちから

～子どもたちの復興をささえるもの～

プログラム

1. ごあいさつ

早水研（公益財団法人日本ユニセフ協会 専務理事）

2. 基調講演「阪神淡路大震災から東日本大震災の 遊び場活動を概観する」

天野秀昭

（NPO法人日本冒険遊び場づくり協会復興支援統括担当事務）

3. プレーカー活動報告

神林俊一、廣川和紀

（NPO法人日本冒険遊び場づくり協会東北オフィス）

4. シンポジウム「あそびのちから」

登壇者 須永力（NPO法人日本冒険遊び場づくり協会理事・
東北オフィス事業本部長）

本田涼子（日本プレイセラピー協会 理事）

鈴木美和子（気仙沼あそびーばー代表）

ほか

コーディネーター：天野秀昭



災害による急激な環境の変化により、子どもたちの「日常」は一瞬にして奪われてしまう。安心して安全に過ごすことができる空間をいち早く確保し、「日常」を取り戻すことは、食糧や飲料水の支援と同様に大切である。

2011年3月11日に発生した東日本大震災。日本ユニセフ協会はユニセフの知見に基づき、支援物資の配布と並行して避難所での「子どもにやさしい空間」の設置に取り組んだ。一方、日本冒険遊び場づくり協会は、阪神淡路大震災時の経験から、震災後すぐに気仙沼市に遊び場を開設。その後、点である気仙沼の遊び場を広域的な活動にするための「プレーカー」による遊び場の出前を開始し、日本ユニセフ協会との連携により活動を大きく広げ、「東北オフィス」を拠点に被災3県、延べ110地域以上にプレーカーを派遣し続けた。

震災直後から復興活動が続く現在まで子どもたちを支え続けているプレーカー事業の経験を通して、子どもにとって「遊び」とはどういうことか、その時のおとなの役割とは何なのか、確実に起きる次の災害時の子どもの心のケアについて考えると同時に、緊急時に取り戻すべき「日常」が、子どもたちの心を守り、育み、そして生きる力を育てる場であるための一石を投じたい。



■ 参加申込書 ■

公益財団法人日本ユニセフ協会 & NPO法人日本冒険遊び場づくり協会 共催シンポジウム
あそびのちから～子どもたちの復興をささえるもの～

| | 参加者① | 参加者② | 参加者③ |
|-------------|------|------|------|
| フリガナ 氏 名 | | | |
| 所 属 | | | |
| 電話番号 | | | |
| メールアドレス | | | |

上記をご記入の上、**03-5789-2034**（日本ユニセフ協会 加藤 宛）まで、FAXでお送りください。

お問い合わせ: info@bouken-asobiba.org

※ご記入いただいた個人情報は、(公財)日本ユニセフ協会が本シンポジウム実施のために使用し、法令に基づく場合を除き、第3者に開示、提供することはありません